

ゆりよ さと 癒旅の郷 ~旅するように暮らす~

1. 現状の課題と原因

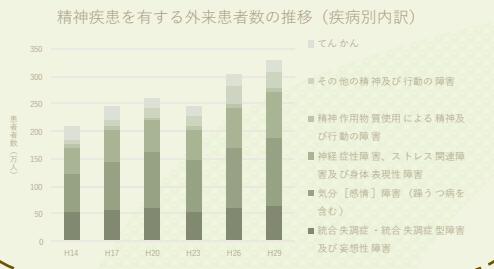
課題① 空き家の増加

左側の図からわかるように、空き家そのものの数が増えているのに対し、賃貸・売却用の空き家数は増えていない。また、右の図から一番の原因は、買い手・借り手が少ないことであることがわかる。



課題② 転地療養の需要拡大

下の図から分かるように、精神疾患の患者が年々増加している。それに伴い、精神をリラックスさせることを目的とする、転地療養の需要が拡大している。



課題③ 地方の過疎化

下の図から、新型コロナウイルス拡大によって東京都への転入者数は落ち着いたものの、収束に伴い、徐々に増加傾向に移っていることが分かる。従って、今後とも地方の過疎化やそれに伴う少子高齢化が進むと考えられる。



2. 企画の概要

全国の子供や若年層が減少し、高齢化が進む中、全国の精神疾患患者（主にうつ病患者）と空き家をなくし、過疎地域の活性化を目的とした滞在・移住プログラム：「癒旅の郷」



3. 企画の詳細

「癒旅の郷」の流れ



「癒旅の郷」と提携している病院や団体からの紹介

- Point①： 精神疾患(うつ病など)と診断された人を見逃さない！提携した精神病院や団体が患者さんに「癒旅の郷」を紹介
- Point②： 患者さんと最適な空き家のマッチング！全国の地方自治体が登録・保存している空き家(空き家バンク)から最適な空き家を探す
- Point③： 滞在先でもしっかりとサポート！地域交流イベントの紹介や、定期的な心理カウンセラーとの面談を行う

一般の方々でも「癒旅の郷」を介して、希望に沿った空き家にお試し滞在していただき、気に入っていただけたら移住するといったようなプログラムも行います！

4. 得られる効果



空き家減少

空き家の実数が減るだけでなく、老朽化する前に空き家を対処できるため、空き家増加の抑制につながる。



過疎化改善

二拠点居住や「ターン・Jターン」を行う人が増え、地域の過疎化の抑制につながる。



精神疾患患者減少

転地療養が必要な精神疾患を持った方々により安価で、より多くの場所の選択肢を与えることにつながる。



地域活性化

子供や若年層が増えることによって、過疎化が抑制され、地域により一層活気が芽生える。



SDGsへの貢献



- 3-4 非感染性疾患による若年死亡率を減少させ、精神保健及び福祉を促進する。精神疾患などによる若者の自殺者数を自然の提供によって、減少させる
- 11-3 全ての国で誰もが参加できる形で持続可能なまちづくりの計画・実行 過疎化・高齢化が進む地域に若者が増やすことによって「持続可能」なまちづくりを目指す
- 12-2 天然資源を持続的に管理し、効率よく使えるようにする 地方の人口増加によって天然資源の管理促進を目指す
- 12-8 自然と調和した暮らし方に関する情報と意識を持つようにする 多くの若年層に地方の暮らしへ興味や意識を持ってもらう